平成２８年度　学校評価（中間評価）

三次市立布野中学校

１　経営理念

□　学校教育目標
　確かな学力を持ち，夢や志に向けて能動的に活動する生徒の育成
□　めざす学校像
○信頼される学校
①安心・安全な学校（自他ともに安心して，楽しく生活できる）　②確かな学力を身に付けさせる学校（学力の向上）
③夢をかなえる学校（自己の成長や良さが実感でき，夢と自信が育つ）　④美しい学校（環境，礼節，一生懸命が美しい）
⑤地域に貢献する学校（地域と連携して地域の活性化に貢献できる）

２　経営目標・評価指標・評価等

評定　Ｓ：100%，Ａ：100%未満～90%以上，Ｂ：90%未満～70%以上，Ｃ：70%未満～50%以上，Ｄ：50%未満～0%

	中期経営目標	短期経営目 （達成目標）	評価指標	評価	成果（○）・課題（▼）等	今後の取組・改善策
確かな学力	○基礎的な知識・技能の定着を図り，思考力・表現力や自己学習力を身に付けた生徒を育てる。	○各種学力検査で，国または県の平均を上回る。 ・平均以上，または経年変化での向上を図る。	○生徒全員が国や県の平均以上，又は昨年以上の正答率。	A	○学校平均は県，国の平均を延べ１２教科のうち１１教科が上回った。 ▼活用力に課題がある。 ▼３０％未満の正答率の生徒がいる。 ▼無回答の設問がある。	・少人数を活かした細かな指導を継続する。 ・活用力を高める学習活動を取り入れる等，授業改善をおこなう。 ・ドリル学習を日常的に取り入れ，基礎学力の定着を図る。また，活用力を高める問題にも取り組む。 ・放課後などを利用し，個別指導を継続して行う。
		○自分の考えを筋道立てて表現する（書く・話す）ことができる。	○70%以上の生徒が肯定的に自己評価している。	A	▼学年にバラツキがあるものの，４割程度の生徒が否定的な回答をしている。 ▼資料を活用した学習活動や論理的思考を促す学習活動が不十分な状況がある。	・ノート作成の好事例を引き続き掲示する。 ・ノートにしっかりと自分の考えを書かせる取組を継続し，授業の中で表現する場面を設定する。 ・「筋道を立てて表現する」とはどんな表現か，各教科で具体例を示して，繰り返し指導する。 ・発問の工夫やノートを活用した授業展開など論理的思考を促す学習活動(授業構成)について研修し，授業改善を図る。
		○家庭学習習慣を定着させる。 ・２時間以上家庭学習を行う。	○生徒全員が，2 時間以上家庭学習を行っている。	C	○家庭学習をしていないという生徒は０名，１時間未満が各学年１名ずつ計３名で，昨年度末アンケート時より１名減少した。さらに，１時間以上２時間未満の生徒が１２名と同じく３名減少した。 ▼自主学習ノートや教科の宿題の未提出者が固定化してきており，減少していない。	・自主学習ノート等を利用し，家庭学習を充実させるように指導する。 ・復習や予習など，教科の学習と関連付けた家庭での課題を出す。 ・教科からの宿題の量を見直していく。 ・細かな家庭連携を行い，学校の取組や子供の様子を伝える。
		○読書習慣を定着させる。 ・年間１５冊以上本を読む。	○生徒全員が，年間 15 冊以上本を読んでいる。	C	○前年同期と比較し 4.3%増えており，読書好きの生徒が多い。 ○夏休みに読書を宿題としたことにより，本を読む意識付けができた。 ▼月に１冊も読まない生徒がいる。 ▼朝読書の時間に宿題等を行っている生徒がいる。	・読まない生徒への意欲付けをおこなう。 ・生徒の希望図書を購入したり，委員会活動の充実をはかったりして，読書への関心を高める。 ・教職員による朝会での本の紹介や図書の展示などを行う。
豊かな心	○礼儀や規範意識を身につけ，場に応じた行動のできる自律した生徒を育てる。	○場に応じた挨拶ができる。 ・レベル５の挨拶	○生徒全員が，式，朝会，授業，来客への対応等の場で，レベル 5 の挨拶ができている。	C	○「地域の方に進んで挨拶をする」は 93.75%とほとんどの生徒が意識して挨拶している。 ▼「レベル５の挨拶」の達成基準を高めたので定着していない状況がある。 ▼「授業で」は 34.38%，「式や集会で」は 46.88%「来客に」は 65.63%ができているとの肯定的評価となっており，できていない生徒が多い。特に，授業での挨拶に課題がある。	・「レベル５の挨拶」の達成基準を再度示し，意識付けを図る。 ・引き続き「場に応じた挨拶」を心がけさせる。 ・指導レベルを統一し，授業時を中心にやりきらせる指導を徹底する。 ・生徒会執行部からも呼びかけるなどして，生徒自らも意識させる。
		○整理整頓や掃除がきれいにできる。	○生徒全員が，掃除や身の回りの整理整頓ができている。	B	▼対前年同期比 2.26 ポイント下回った。 ▼教室，体育館の個人ロッカーの整理が必要。	・全体指導と個別指導を続ける。 ・無言で，時間いっぱい掃除ができるようレベルアップを図る。 ・教室，体育館の個人ロッカーを整理させる。 ・生徒会からの呼びかけなども行い，生徒会と連動して取組む。
		○ルールを守って生活できる。 ・校則，時間	○生徒全員が校則と時間を守っている。	A	○「校則」は 98.75%，「時間」は 90.63%の肯定的評価であった。	・正確な時間を生徒に伝え，時間を意識した行動ができるように指導する。 ・２分前には授業準備を終えて，１分前には自分の席についておく。
	○自己肯定感を高め，思いやりの心をもった生徒を育てる。	○生徒が「自分には良いところがある」「周りから認められている」と感じている。	○生徒全員が，自分のことを肯定的に自己評価している。	C	○「自分に良いところがある」は，対前年同期から 7.4 ポイント上昇した。 ▼「周りから認められている」は対前年同期から 10.87 ポイント下がっている。	・アンケートでマイナス評価をした生徒に対して，肯定的な評価の声掛けをする。 ・集団活動の場面で，生徒同士の認め合いや，肯定的評価をしあう場面を増やす。 ・様々なことに挑戦した過程も評価し，自信を持たせる取組の継続が必要である。特に，教師が積極的に肯定的な評価をする。
健やかな体	○基礎体力を向上させ活力ある生徒を育てる。	○基本的な生活習慣が身についている。 ・給食，朝ごはんの定着	○生徒全員が，朝食をとり，給食を残さず食べている。	A	○朝食はほとんどの生徒が食べている。 ○給食も残菜を出さないように意識できている。 ▼朝食をとっていい個人への対応が必要。 ▼保護者に自分の子供の様子を伝えることが必要。	・調理場栄養士と連携し，食の大切さについての学習や保護者への啓発活動を継続する。 ・朝食を摂らない生徒が固定化しており，保護者と連携し対応する。 ・保護者に自分の子供の様子を伝え，連携して取り組む。
		○ワンステップタイムを充実させる。	○生徒全員が，体力が向上したと感じている。	A	▼対前年同期から 6.25 ポイント下がった。 ▼今後も全員が参加できるよう取り組む。	・委員会で担当者を明確にして，基礎体力を向上させる内容を設定し，継続して取り組む。 ・スポーツテストの結果を活用した運動内容を行う。 ・11 月からは，放課後実施となる。放課後学習の取組と重なり，参加できない生徒もおり，家庭学習をやりきらせることも必要である。
信頼される学校	○学んでよかった思える学校にする。	○生徒が授業や学校生活に満足している。	○生徒全員が，「授業はわかる」「学校が楽しい」と肯定的に評価している。	A	▼「授業はわかる」は対前年同期比 2.76 ポイント，「学校は楽しい」は 4.27 ポイントそれぞれ下がった。	・全教科で，統一した授業モデルに基づいたわかりやすい授業づくりを継続し，授業研究の充実を図る。 ・つけたい力（めあて）を明確にする。 ・自己存在感が持てる活動を日常の中にも設定する。 ・個人面談を定期的に行う。
		○保護者が本校教育に満足している。 ・安心と満足	○保護者全員が，「安心」「満足」と肯定的に評価している。	B	「安心して通わせている」は対前年同期を 2.85 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。一方，「満足している」は対前年同期を 15.32 ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。 ○「安心して通わせている」の評価は高く，生活面での指導や保護者との連携は満足してもらっていると考えられる。 ▼「満足している」の評価が低い。 ▼生徒間の言葉遣いや態度などから互いに嫌な思いをしているのではないかと不安に感じている保護者がいる。 ▼学力に不安を感じている保護者がいる。	・引続き通信やＨＰ等で情報提供する。 ・教職員が生徒の様子について情報共有を行い，学年会を中心に組織的に対応し，保護者連携を細やかに行う。 ・ドリル学習，補充学習等による基礎学力へのアプローチとともに家庭と連携して家庭学習の定着を図り，学力向上につなげる。 ・行事等へのアンケートや学級懇談，期末懇談等で把握した意見や要望等を，今後の取組にいかす。